

## 教育研修：オリンピックと疫病

真田 久\*

### ●はじめに

オリンピックと感染症の関係は古代にまで遡る。またアントワープ 1920 大会も、スペインインフルエンザの直後に開催された。歴史を踏まえ、オリンピックと疫病との関係について、また東京 2020 大会の意義について考察する。

### ●1. オリンピックと疫病の歴史

#### 1.1 古代オリンピック

古代オリンピックは、紀元前 776 年に始まり、紀元後 393 年まで 1200 年近く行われた。その起源について、2 世紀にパウサニアスは次のように記した。

「エリスのイフィトスは、オリンピアでの競技祭を整備し、しばらく中断していた競技祭と休戦を再興した。当時のギリシャは内戦と疫病でひどく疲弊していたので、イフィトスが、デルフォイの神に災いから逃れられる術を尋ねた。すると、オリンピアでの競技祭を再開するよう命じたのだ。(Frazer)」

古代オリンピックは、戦争と疫病で途絶えた祭典を再興したという解釈が成り立つ。再興する際に、休戦協定が加えられたことで、途絶えることがなくなった。休戦はオリンピックを永続化するための知恵であった。

オリンピアの地はギリシャの最高神ゼウスの聖地であった。戦いを休止し、身体のパフォーマンスを見せることで神々を称える、これは人間の活力の献上であった。災難に見舞われた時、神の意向を探る難から逃れようとするのは人間の常で、日本の祭りにも同様の意味合いが含まれてい

るものも多い。

#### 1.2 近代オリンピックと疫病—アントワープ 1920 大会—

戦争と疫病からの復興という性格を持つ近代オリンピックがアントワープ 1920 大会である。この大会は第一次世界大戦とスペインインフルエンザ直後に開催された。大戦とともに、アメリカで発したインフルエンザが 1918 年から 20 年まで世界的に流行し、5000 万人もの死者が出た。その直後に開催されたのがアントワープ 1920 大会であった。開催期間は 4 月 20 日から 9 月 12 日までで、29 カ国で 23 競技が競われた。8 月 14 日の開会式では、オリンピック理念が可視化されたことが大きな特徴である。それは次のようなものである。

##### ・オリンピックシンボル（五輪旗）の掲揚

五輪旗はクーベルタン自身によるデザインで、彼は次のように述べている。

「これら 5 つの輪は、オリンピズムに引き継がれ、実りある競争を受け入れる世界の 5 大陸を表している。さらに、白い背景を含む 6 色は、すべての国旗の色を再現する。(Mallon, p.7)」

各国の連帯という意味で、世界大戦後、全ての人が集う場として大会が開催されたことの意味は大きかった。

##### ・選手宣誓と放鳩

開会式では、ベルギー選手が次のような宣誓を行なった。

「我々は祖国とスポーツの名誉のために、騎士道精神をもってオリンピック競技大会に参加することを誓う (Mallon, p.8)」

騎士道精神はクーベルタンがオリンピズムを語る際によく用いた。1935 年にはオリンピズムの 5 原則を説明する中で、騎士道精神について、「アスリートは中世騎士道の友愛の精神のもと、名誉と

\* 筑波大学

フェアプレイの態度で競技する」と述べている (Naul, pp.13-14).

さらに、平和の象徴として鳩が空に放たれた。鳩は軍で通信用に使用され、戦争が終わり、鳩は必要なくなったので、平和の象徴として放鳩したのである。

#### ・「精力善用・自他共栄」の誕生

アントワープ 1920 大会の日本選手団団長は嘉納治五郎である。大会後、嘉納は欧州と米国を回り、チェコスロバキヤの大統領初め教育研究者、政治家や行政官に面談して大戦後の様子を見聞した。横浜に帰着したのは 1921 年 2 月 11 日であった。ウィーンでは、物価の高騰や物不足による生活苦に陥っている様子を出稼ぎ人に直接話しかけて確認した (嘉納, 有効の活動 7 巻 3 号, p.5)。

オックスフォードの校長は、学生は運動場で精神教育を行い、団体に奉仕する精神や、紳士のマナーを教えていること、また、戦争で男女を区別する理由はなくなり、女子でも学位が与えられ、如何なる職務にもつけるようになったことが紹介された。さらに国際連盟を創設しなければ世界の平和の維持は不可能であるとの議論もされた (嘉納, 有効の活動, 7 巻 11 号, p.8)。

その一方、米国では「黒人と白人とは到底融和することが出来ぬと思つて居る者が多い」という感触を彼は得た。大学総長と会談した際にも「同博士も黒人は殆ど同化することの出来ぬものと諦めて居るように見受けられた」と述べ、第一次大戦後に急増した米国への移民に対する問題の深さを認識した (嘉納, 有効の活動, 8 巻 3 号, pp.14-15)。オリンピックで示した連帯は理想ではあるが、現実社会では逆に、分断が進んでいる様子を認識した。

嘉納は 1922 年 1 月 1 日に講道館文化会を設立する。そこで彼は次の宣言を示した。

#### 《宣言》

一、各個人に対しては身体を強健にし智徳を錬磨し社会に於て有力なる要素たらしめんことを期す

二、国家に就いては国体を尊び歴史を重んじ其の隆昌を図らんが為常に必要なる改善を怠らざらむことを期す

三、社会に在っては個人団体各互に相助け相譲り徹底せる融和を実現せしめんことを期す

四、世界全般に亘つては人種的偏見を去り文化

の向上均霑に努め人類の共栄を図らんことを期す  
国家について改革を怠らないようにすること、また世界に対しては、人種的偏見を去り、と米国で感じた黒人差別をなくさない限り、人類共通の文化であるスポーツやオリンピック・ムーブメントを発展させていくことはできない、という嘉納の決意を感じさせる。1948 年の世界人権宣言より 26 年も前のことである。

嘉納は 1915 年に発表した「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である」の心身の力を精力の二文字にし、人間の行動は善を目的に最も有効に行うという事で「精力最善活用」を唱えた。それによって自己を完成させ、個人の完成が直ちに他の完成を助け、自他一体となって共栄することで人類の平和と幸福を求めたのである。

“精力善用・自他共栄”，そして宣言は世界大戦とインフルエンザ禍を背景として生まれたのであった。

## ●2. 東京 2020 大会における精力善用と自他共栄

東京 2020 大会は無観客ながら、感染を抑えて無事に終了した。大会組織委員会、医療関係者、政府、そして IOC や IPC など国際スポーツ界が連帯できたからである。バブル方式の実施とともに、スクリーニング検査は一日平均 1.4 万人行い、陽性者数は 304 人 (0.03%)、療養者数は 142 人で、入院対応になったのは 1 名のみであった。

さらに東京 2020 大会では、徹底的に省力化を果たした。選手以外の関係者 (IF, IOC などのオリンピックファミリーなど) の参加者数をかなり減らした。

オリンピックでは当初 14.1 万人の参加予定者を 3.3 万人に、パラリンピックでは 3.6 万人を 1 万人に減じた。また毎日のように開催されるパーティや競技場に設置されるゲスト対応のホスピタリティも削減された。その結果、アスリートたちの熱戦に関係者が集中できた。

アスリートは延期された苦しい 1 年を乗り越えて集ったので、お互いを称え合う場面が多く見られた。

また開会式では「より速く、より高く、より強く」というオリンピックモットーに、「TOGETHER とともに」を 4 番目のモットーに加えることが公表された。LGBT アスリートも活躍し、ま

た男女混合種目も多くなり、共生社会を目指すパラリンピックでは、「We The 15」が掲げられたことで、「ともに」という意味が深く刻まれた。

「より速く、より高く、より強く」は個人の課題であるが、「ともに」は自他一緒にということである。前者は精力善用、後者は自他共栄ともいえよう。

## ●まとめ

人類は古代より、オリンピックを通して戦争や疫病に立ち向かってきた。古代では休戦を編み出し、近代においては、連帯の象徴としてオリンピック・シンボルを編み出した。さらに嘉納治五郎は「精力善用・自他共栄」の考えと人種的偏見の撤廃を宣言した。

東京 2020 大会では、省力化を図り、連帯と称え合う姿を通して、ムーブメントとして大切なものを提示した。それは嘉納が示した考えと合致するものであり、今後の大会やムーブメントのあり方を考える上で重要である。

## 文 献

- 1) Frazer J. Pausanias's description of Greece. London: Macmillan; 469, 1898.
- 2) 嘉納治五郎. 国際オリンピック大会を終えて. 有効の活動. 1921; 7(2,3,6,11).
- 3) 嘉納治五郎. 国際オリンピック大会を終えて (続き). 有効の活動. 1922; 8(3).
- 4) 嘉納治五郎口述・落合寅平筆録. 柔道家としての嘉納治五郎 16. 作興. 1928; 7(4).
- 5) Mallon B., Bijkerk A.Th., The 1920 Olympic Games: Results for all competitions in all events, with commentary. Mcfarland & Company, 7-13, 2003.
- 6) Naul R., Binder D., Rychteckey A., Culpan L. Olympic Education: An international review. London: Routledge; 2017.
- 7) Pausanias. In: Pausanias Description of Greece with an English translation by W.H.S.Jones and H.A.Ormerod, II, Harvard University Press. 5.4.5-6, 1977.
- 8) 嘉納治五郎. 生誕 150 周年記念出版委員会(編). 気概と行動の教育者. 東京: 筑波大学出版会; 39-40, 2011.